

日本語 HP DECwindows Motif for OpenVMS

日本語機能説明書

2005 年 2 月

本書では、日本語 HP DECwindows Motif for OpenVMS の日本語機能
について説明します。

オペレーティング・システム: 日本語 HP OpenVMS I64 V8.2
日本語 HP OpenVMS Alpha V8.2

ソフトウェア・バージョン: 日本語 HP DECwindows Motif for OpenVMS,
V1.5

日本ヒューレット・パッカート株式会社

2005 年 2 月

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パッカーは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Motif、OSF/1 および UNIX は The Open Group の商標です。

本書に記載のあるその他すべての製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1 を用いて作成しています。

目次

まえがき	v
1 X Window System	
1.1 X Locale	1-1
1.2 入力サーバ	1-1
1.3 X Toolkit Intrinsics	1-2
1.4 国際化プログラミング	1-2
2 Motif ツールキット (Xm) および弊社による Motif ツールキットの 拡張 (DXm)	
2.1 日本語の表示	2-1
2.2 日本語の入力	2-2
2.3 日本語 Motif 1.1.3 との互換性	2-2
2.4 DXmCSText のコンパウンド・ストリング	2-3
2.5 DXmCSText の日本語入力の制御	2-3
3 クライアント間の通信	
4 日本語フォント	
4.1 75 dpi フォント	4-1
4.2 100 dpi フォント	4-3

5	フォント・コンバータ	
5.1	フォント・ファイル変換の方法	5-1
5.2	フォント・ファイル変換の例	5-2
6	日本語入力機能	
6.1	DEC 日本語入力サーバの使い方	6-2
6.1.1	日本語入力サーバ	6-3
6.1.2	DEC 日本語入力サーバによる日本語入力	6-4
6.1.3	DEC 日本語入力サーバの設定	6-5
6.1.4	入力スタイル	6-6
6.1.5	over-the-spot 入力スタイル使用時の注意	6-6
6.2	日本語入力の変換キー	6-8
6.2.1	変換キー定義の変更	6-13
6.3	変換規則	6-14
6.3.1	ローマ字かな変換対応表	6-15
6.3.2	特殊文字変換対応表	6-16
6.3.3	記号変換対応表	6-17
6.3.4	コード入力	6-18
6.4	キーボードの「カナモード」の使用	6-19
6.5	PCXAJ-AA キーボードでのキーの合成	6-20

表

6-1	日本語入力の変換機能	6-2
6-2	JVMS 変換キー定義	6-9
6-3	EVEJ 変換キー定義	6-10
6-4	LEIA 変換キー定義	6-11
6-5	TARO 変換キー定義	6-12
6-6	PCXAJ-AA と PCXAL-AA でのキー合成の違い	6-20

まえがき

本書の目的

本書は日本語 OpenVMS ウィンドウ環境の日本語機能について解説します。

本書の対象読者

本書は、日本語 HP DECwindows Motif for OpenVMS を使用して日本語アプリケーションの開発を行うプログラマを対象にしています。

関連資料

日本語 DECwindows Motif , DXm (DECwindows Extension to Motif) の一般的な機能については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『OSF/Motif プログラマーズ・ガイド リリース 1.2』
- 『OSF/Motif プログラマーズ・リファレンス リリース 1.2』
- 『OSF/Motif スタイル・ガイド リリース 1.2』の付録 F 「日本語 OSF/Motif 1.2 ポータビリティ・ガイド」
- 『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 拡張機能説明書』

また、X11R5 に関する参考文献としては以下の書籍等があります。

- 『X Window System, X Version 11, Release 5』 Digital Press
- 『The Definitive Guides to the X Window System, Programmer's Supplement for Release 5』 O'Reilly & Associates, Inc.

本書の構成

本書は、以下の6つの章で構成されています。

第1章	X Window System
第2章	Motif ツールキット (Xm) および弊社による Motif ツールキットの拡張 (DXm)
第3章	クライアント間の通信
第4章	日本語フォント
第5章	フォント・コンバータ
第6章	日本語入力機能

本書で使用する表記法

本書では、以下の表記法を使用します。

Ctrl/x	Ctrl/x は、Ctrl キーを押しながら、別のキーまたはポインティング装置のボタンを押すことを示します。
Return	例中の四角で囲まれたキー名は、キーボード上の対応するキーを押すことを示します（文中ではキー名は四角で囲まれていません）。
...	例中の水平の反復記号は、以下のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none">• 文中で省略可能な追加の引数が省略されていること• 前の項目を何度か繰り返すことができること• 追加パラメータ、値、または他の情報を入力できること
.	垂直の反復記号は、コード例やコマンド形式で項目が省略されていることを示します。
()	形式の説明で、括弧は、複数のオプションを選択するときに、選択したオプション全体を括弧で囲まなければならないことを示します。
[]	形式の説明で、大括弧で囲まれた項目は、省略可能な項目を示します。何も選択しないか、1つの項目を選択するか、またはすべての項目を選択します（ただし、ファイル指定におけるディレクトリ名、および代入文における部分文字列指定では、大括弧を省略することはできません）。

太字	太字のテキストは、新しい用語の紹介、引数名、属性または理由を示します。 太字のテキストは、オンライン版ドキュメントでのユーザ入力を示すのにも使用します。
数字	特に指定しない限り、文中のすべての数字は 10 進数で示します。他の基数 — 2 進数、8 進数、または 16 進数 — の場合は明確に示します。

1.1 X Locale

日本語 DECwindows Motif では、X11R6 の国際化機能を使用して日本語のアプリケーションが作成できます。XmbDrawString()等を用いた日本語の表示や、XmbLookupString()等を使用した日本語の入力が可能です。

X library は以下の日本語ロケールをサポートします。

```
ja_JP
ja_JP.eucJP
ja_JP.deckanji
ja_JP.sdeckanji
ja_JP.deckanji2000
```

X Library は XIM プロトコルとして、X11R6 標準の R6 XIM プロトコルと Ximp プロトコルをサポートします。入力サーバと接続する場合、最初に R6 XIM プロトコルをサポートする入力サーバとの接続を試み、続いて Ximp プロトコルをサポートする入力サーバとの接続を試みます。以前の日本語 DECwindows Motif では、Ximp プロトコルをサポートする入力サーバと接続する場合、論理名 DECWSXVENDORLAYER を定義する必要がありましたが、現在は不要です。

1.2 入力サーバ

日本語 DECwindows Motif は DEC 日本語入力サーバ (DECWSJIM) を提供します。DECWSJIM を使用する場合は im modifier は "DEC" です。im modifier を省略した場合も "DEC" として動作します。

例

```
define XMODIFIER "@im=DEC"
```

DEC 日本語入力サーバ (DECW\$JIM) は以下の入カスタイルをサポートします。

XIMPreeditCallbacks,XIMStatusNothing	(OnTheSpot)
XIMPreeditPosition,XIMStatusNothing	(OverTheSpot)
XIMPreeditNothing,XIMStatusNothing	(Root)
XIMPreeditArea,XIMStatusNothing	(OffTheSpot)

また、DEC 入力サーバ・ライブラリを使用して、独自の入力サーバを作成することができます。そのような入力サーバでは、サーバで指定した名前を `im modifier` にセットします。DEC 入力サーバ・ライブラリについては『DEC 入力サーバ・ライブラリ』を参照してください。

1.3 X Toolkit Intrinsics

X11R6 においては、`XtSetLanguageProc()`を使用して Xlib とツールキットの言語の整合性をとることができます。これによって、ログイン時あるいは DECwindows のセッション・マネージャで設定した言語でアプリケーションを動作させることが可能です。

1.4 国際化プログラミング

日本語 DECwindows Motif で提供されるロケール・サポートは、DEC C ライブラリでのロケール・サポートとの互換性があります。このロケール環境で、これらの機能を使用して国際化アプリケーションを作成する場合は、次の手順に従ってください。

- Xlib アプリケーションについては、`<X11/Xlocale.h>`をインクルードします。`<stdlib.h>`をインクルードする場合は、`<X11/Xlocale.h>`をインクルードする前に実行してください。
- Motif アプリケーションの場合は、`<X11/Xlocale.h>`は自動的にインクルードされます。

- 次のコンパイル・フラグをオンにしてください。

```
/define=(X_LOCALE,X_WCHAR,_WCHAR_T_,XLIB_XPG4_FUNCS)
```

Motif ツールキット (Xm) および弊社による Motif ツールキットの拡張 (DXm)

2.1 日本語の表示

DECwindows Motif が提供する国際化機能を使用して、Xm および DXm のウィジェットで日本語の表示、入力ができます。

言語設定が日本語の場合、XmFileSelectionBox、DXmColorMix 等のウィジェット内の省略時のラベルは自動的に日本語になります。また、ウィジェットの省略時のフォント・リストは、以下のフォントからなる日本語用のフォント・セットを持ちます。

```
-JDECW-Kmenu-Medium-R-Normal--*-120-*--P*-ISO8859-1  
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--*-120-*--M*-JISX0201.1976-0  
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--*-120-*--M*-JISX0208.1983-1
```

日本語を扱うアプリケーションの開発には、OSF/Motif 1.2 の XmFontListEntryLoad()、XmFontListAppendEntry() 等で作成される、フォント・セットを用いたフォント・リストや、XmStringCreateLocalized() 等で作成される、XmFONTLIST_DEFAULT_TAG を用いたコンパウンド・ストリングが使用できます。UIL でそのようなコンパウンド・ストリングを生成するためのコマンド・オプションは、OpenVMS では“/LOCALE”です。

なお、以前のバージョンとソースの互換性を保つため、DXmCvtFCtoCS() 等の関数も動作します。これらについては、以前のバージョンの日本語 Motif 日本語機能説明書を参照してください。

2.2 日本語の入力

OSF/Motif 1.2 の XmIm の機能を使用して日本語の入力ができます。ウィジェットでは DXmCSText に加えて XmText, XmTextField でも日本語が入力できます。ただし, DEC 日本語入力サーバ (DECWSIM), または DEC 入力サーバ・ライブラリを使用した他の入力サーバが動作していることが必要です。XmText, XmTextField ウィジェットは OnTheSpot スタイルをサポートするように拡張されています。

VendorShell の XmNinputMethod に "DEC" を指定すると DEC 入力サーバが使用されます。何も指定しない場合も同様に動作します。

VendorShell の XmNpreeditType リソースは, 以下の値を取ることが出来ます。

XmNpreeditType: *type[,type...]*

*type*には OnTheSpot, OverTheSpot, OffTheSpot, Root のいずれかの文字列を指定します。XmNpreeditType の省略時の値は "OverTheSpot,OffTheSpot,Root" です。

2.3 日本語 Motif 1.1.3 との互換性

日本語 DECwindows Motif では, リソース・ファイル内にコンパウンド・ストリング・リソースの値として書かれた日本語文字列は, 各キャラクタセットごとのタグを持ったコンパウンド・ストリングに変換されていました。

本バージョンでは日本語 Motif 1.2 に従い, XmFONTLIST_DEFAULT_TAG を持ったコンパウンド・ストリングに変換されます。また, XmCommand, XmSelectionBox, XmFileSelectionBox の callback でアプリケーションに渡されるコンパウンド・ストリングも本バージョンからは, XmFONTLIST_DEFAULT_TAG を持ったものになります。

これらのコンパウンド・ストリングが以前のバージョンのタイプである必要がある場合には, 論理名 DECWSAMOTIF11 をセットしてください。

```
define DECWSAMOTIF11 T
```

2.4 DXmCSText のコンパウンド・ストリング

キーボードから DXmCSText に文字列を入力して、その文字列を DXmCSTextGetString()関数等で取り出した場合、文字列はコンパウンド・ストリング内で、キャラクタ・セットごとのセグメントに分割されています。日本語 DECwindows Motif では、そのようなコンパウンド・ストリングで日本語を扱ってきました。

本バージョンの DECwindows Motif では、そのようなコンパウンド・ストリングに加えて、複数のキャラクタ・セットを含んだコード・セットの文字列を XmFONT_LIST_DEFAULT_TAG のセグメントで取り扱うことができます。キーボードから入力した CSText の文字列が XmFONT_LIST_DEFAULT_TAG を用いたコンパウンド・ストリングで取り出されるようにするには、論理名 DECWSAMOTIF12 をセットしてください。

```
define DECWSAMOTIF12 T
```

2.5 DXmCSText の日本語入力の制御

DXmCSText の DXmNinputMethod リソースは作用しません。入力サーバの切り換え等の制御には、VendorShell の XmNinputMethod リソースを使用してください。

クライアント間の通信

Mwm に日本語のタイトルおよびアイコン名を表示させるには、WMSHELL の XmNtitle, XmNiconName リソースにコンパウンド・テキストで日本語文字列を与え、XmNtitleEncoding, XmNiconNameEncoding リソースに "COMPOUND_TEXT" のアトムをセットします。XmBulletinBoard ウィジェット (およびそのサブクラス) と DXmHelp ウィジェットでは、それぞれ、XmNdialogTile と XmNtitleLabel リソースにコンパウンド・ストリングで日本語文字列を与えることができます。

クリップ・ボードを使用した通信では、コンパウンド・テキストで日本語文字列を通信します。OpenVMS のクリップ・ボードでは、DDIF フォーマットも使用できます。

日本語 OpenVMS は、以下の XLFD の日本語フォントを提供します。

4.1 75 dpi フォント

```
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-40-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-50-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-60-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-90-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-80-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-100-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-120-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-140-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-180-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-240-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-40-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-50-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-60-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-90-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-JISX0201.1976-0
-JDECW-Kmenu-Medium-R-Normal--12-120-75-75-P-70-ISO8859-1
-JDECW-Kmenu-Medium-R-Normal--12-120-75-75-P-70-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-40-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-50-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-60-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-90-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-80-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-100-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-120-JISX0208.1983-1
```

-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-140-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-180-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-240-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--8-80-75-75-M-40-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-50-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--12-120-75-75-M-60-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-90-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-JISX0201.1976-0
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-DEC-DECsuppl
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-80-DEC-DECsuppl
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-DEC-DECsuppl
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-DEC-DECtech
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-80-DEC-DECtech
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-DEC-DECtech
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-ISO8859-1
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-80-ISO8859-1
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-ISO8859-1
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-100-JISX0208-Kanji00
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-140-JISX0208-Kanji00
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--16-160-75-75-M-160-JISX0208-Kanji00
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-160-JISX0208-Kanji00
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-240-JISX0208-Kanji00
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-100-JISX0208-Kanji11
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-140-JISX0208-Kanji11
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-160-JISX0208-Kanji11
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-240-JISX0208-Kanji11
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--10-100-75-75-M-50-JISX0201-RomanKana
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--14-140-75-75-M-70-JISX0201-RomanKana
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--16-160-75-75-M-80-JISX0201-RomanKana
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--18-180-75-75-M-80-JISX0201-RomanKana
-JDECW-Screen-Medium-R-Normal--24-240-75-75-M-120-JISX0201-RomanKana

4.2 100 dpi フォント

-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-55-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-70-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-85-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-100-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-125-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-170-ISO8859-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-110-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-140-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-170-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-200-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-250-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-340-JISX0208.1983-1
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-55-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-70-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-85-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-100-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-125-JISX0201.1976-0
-JDECW-Gothic-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-170-JISX0201.1976-0
-JDECW-Kmenu-Medium-R-Normal--17-120-100-100-P-85-ISO8859-1
-JDECW-Kmenu-Medium-R-Normal--12-120-100-100-P-85-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-55-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-70-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-85-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-100-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-125-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-170-ISO8859-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-110-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-140-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-170-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-200-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-250-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-340-JISX0208.1983-1
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--11-80-100-100-M-55-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--14-100-100-100-M-70-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--17-120-100-100-M-85-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--20-140-100-100-M-100-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--25-180-100-100-M-125-JISX0201.1976-0
-JDECW-Mincho-Medium-R-Normal--34-240-100-100-M-170-JISX0201.1976-0

フォント・コンバータ

フォント・コンバータとは、フォント・エディタによって作成したユーザ定義文字フォント・ファイルをPCF形式（AlphaおよびI64の場合）、またはDECwindows形式（VAXの場合）のフォント・ファイルに変換するものです。これにより、ユーザ定義文字をワークステーションのディスプレイ上に表示することができるようになります。

5.1 フォント・ファイル変換の方法

まず、次のようにフォント・コンバータをコマンドとして定義します。

```
$FONTCONVERTER := $SYS$COMMON:[SYSEXE]DECW$AFONTCONVERTER
```

フォント・ファイル変換には、fontconverterを使用します。fontconverterは、次のようにコマンド行から起動します。

```
$ fontconverter [-オプション] -font フォント名 [-preload] プリロード・ファイル名
```

fontconverterに指定できる省略可能なオプションには次のものがあります。

-merge	このオプションを指定すると、ユーザ定義文字を指定フォントのすべての文字とマージします。このオプションを指定しない場合、指定されたフォントの省略時の文字だけをマージします。
-w width	ユーザ定義文字の幅を指定します
-h height	ユーザ定義文字の高さを指定します

-udc udc_name -merge を指定しなかった場合のフォントの registry を指定します。出力されるファイル名は、{udc_name}_{width}_{height}.pcf と {udc_name}_{width}_{height}.bdf (AXP の場合) , {udc_name}_{width}_{height}.DECW\$FONT と {udc_name}_{width}_{height}.DECW\$BDF (VAX の場合) です。

次の 2 つの指定は省略することはできません。

-font フォント名 マージ先のフォントのフォント名を指定します。
-preload プリロード・ファイル名 ユーザ定義文字フォント・ファイル名を指定します。プリロード・ファイル名は省略できませんが、-preload は省略することができます。

5.2 フォント・ファイル変換の例

次の例では、プリロード・ファイル test.pre 中のユーザ定義文字を PCF/BDF ファイルに変換します。出力されるファイル名は、TEST_24_24.bdf と TEST_24_24.pcf (AXP) , TEST_24_24.DECW\$BDF と TEST_24_24.DECW\$FONT (VAX) です。

```
$ fontconverter -w 24 -h 24 -udc TEST -font "*mincho*24*jisx0208.1983" test.pre
```

次の例では、プリロード・ファイル test.pre 中のユーザ定義文字を "*mincho*24*jisx0208.1983" 中の文字とマージします。出力されるファイル名は、JISX0208.1983_24_24.pcf (AXP) , DECW\$FONT (VAX) です。

```
$ fontconverter -merge -font "*mincho*24*jisx0208.1983" test.pre
```


6

日本語入力機能

本章では、日本語 DECwindows Motif で提供する日本語入力機能について説明します。

日本語 DECwindows Motif では、テキストの入力を行うことのできる箇所で日本語を入力することができます。日本語の入力は、ローマ字あるいは、かなで“読み”を入力してから“変換キー”を使用して漢字、ひらがな、カタカナなどに変換します。日本語入力の変換機能を表 6-1 に示します。

表 6-1 日本語入力の変換機能

機能	説明
漢字変換， 文節次候補	漢字に変換します。 続けてもう一度押すと，次の候補が表示されます。
ひらがな変換， 文節ひらがな変換	ひらがなに変換します。
カタカナ変換， 文節カタカナ変換	カタカナに変換します。
全角変換	英数記号を全角に変換します。
半角変換	英数記号を半角に変換します。
記号変換， コード入力	1～3文字の英数記号を特殊な記号に変換します（第 6.3.3 項を参照）。あるいは，漢字コードから漢字に変換します（第 6.3.4 項を参照）。
大文字変換	英字を大文字に変換します。
小文字変換	英字を小文字に変換します。
次文節移動	漢字変換した文字列に複数の文節がある場合に，次の文節に移動します（次の文節を変換対象とする）。
前文節移動	漢字変換した文字列に複数の文節がある場合に，前の文節に移動します（前の文節を変換対象とする）。
文節縮小	変換対象である文節を縮小します。
文節拡大	変換対象である文節を拡大します。
文節前候補	一つ前の漢字変換の候補を表示します。
全文確定	入力した読み全体の変換を確定します。
文節確定	現在の変換対象である文節の変換を確定します（文節が複数ある場合は，次の文節が変換対象となります）。
変換取消， 無変換	読みを変換した直後は，変換開始前の読みを入力した状態にもどします（読みを修正することができます）。 読みを入力した直後は，入力した文字のまま確定します。

6.1 DEC 日本語入力サーバの使い方

DEC 日本語入力サーバは，X11R5 で採用された国際化入力方式である R5 XIM，X11R6 で採用された国際化入力方式である R6 XIM に対応した日本語入力サーバです。

日本語 DECwindows Motif では、XmText、XmTextField および DXmCSText ウィジェットで日本語入力ができます。

日本語入力を行うには、アプリケーションが表示されるディスプレイ・サーバ上にあらかじめ DEC 日本語入力サーバが起動されている必要があります。

6.1.1 日本語入力サーバ

セッション・マネージャや各アプリケーションで日本語入力を行うには、それらを表示しているディスプレイ上で日本語入力サーバが動作している必要があります。

1 つの日本語入力サーバが同一ディスプレイ上の複数のアプリケーションに対して日本語入力機能を提供します。この場合、リモート・ノードからネットワークを経由して同一ディスプレイに表示されているアプリケーションも日本語入力サーバによる日本語入力を受けることができます。

日本語 DECwindows Motif は、従来のバージョンにて提供されてきた日本語入力サーバである DECW\$JIM に代わり、新しい入力サーバ (DECW\$IM) を提供します。入力サーバは、セッション・マネージャの自動起動の項目に含まれるよう設定されていますので、セッションを開始すると自動的に起動されます。ただし、日本語 DECwindows Motif の以前のバージョンでセッション・マネージャのカスタマイズを行っているユーザの場合、DECW\$IM が自動起動されない場合があります。この場合、セッション・マネージャの「設定」メニューから「自動起動...」を選択し、DEC 日本語入力サーバを自動起動項目に加え、その設定を保存してください。なお、この新しい日本語入力サーバは DECW\$JIM というファイル名でも提供されており、既存の入力サーバ起動用コマンド・プロシージャ等がそのままお使いいただけます。

DEC 日本語入力サーバは以下のコマンドで起動することもできます。

```
SPAWN/NOWAIT RUN SYS$SYSTEM:DECW$JIM
```

6.1.2 DEC 日本語入力サーバによる日本語入力

DEC 日本語入力サーバが動作しているディスプレイでアプリケーションを起動し、文字入力領域にフォーカスをあてると、DEC 日本語入力サーバのタイトルが入力スタイルを表示するよう変化します。この状態で、日本語入力が可能です。DEC 日本語入力サーバは *on-the-spot*、*over-the-spot*、*off-the-spot*、*root-window* の 4 つの入力スタイルをサポートしており、省略時のスタイルは *over-the-spot* です。

over-the-spot のスタイルでは、日本語変換はアプリケーションのウィンドウの上で行われますので、特に DEC 日本語入力サーバを意識せずに日本語入力を行うことができます。ただし、変換中の文字列は、アプリケーションのウィンドウの上に表示されるので、既に存在する文字列の途中に文字を挿入する場合は変換が確定するまで、既存の文字列の一部が被り隠されることがあります。

on-the-spot スタイルでは、日本語変換はアプリケーションのウィンドウ内で行われ、特に DEC 日本語入力サーバを意識せずに日本語入力を行うことができます。既に存在する文字列の途中に文字を入力する場合でも、既存の文字列の一部が被り隠されることはありません。

off-the-spot スタイルでは、アプリケーションのウィンドウの下部に日本語入力用のウィンドウが表示され、入力された文字列はそのウィンドウ内に表示されます。日本語変換が確定するまでは、変換中の文字列はすべて日本語入力用ウィンドウ内に表示されますので注意が必要です。

root-window スタイルでは、アプリケーションのウィンドウに入力された文字列は、DEC 日本語入力サーバのウィンドウ内に表示されます。日本語変換が確定するまでは、変換中の文字列はすべて DEC 日本語入力サーバのウィンドウ内に表示されますので注意が必要です。

入力スタイルの設定方法については第 6.1.4 項を参照してください。

6.1.3 DEC 日本語入力サーバの設定

DEC 日本語入力サーバ・ウィンドウには「漢字変換」あるいは「ASCII」のいずれかの文字列が表示されます。「漢字変換」が表示されている場合、アプリケーションはDEC 日本語入力サーバを使用して日本語を入力することができます。「ASCII」が表示されている場合は、日本語入力できません。

「ASCII」の状態から「漢字変換」の状態に変更するためのキーを始動キーと呼びます。逆に「漢字変換」から「ASCII」の状態に変更するためのキーを終了キーと呼びます。

始動キーおよび終了キーの標準値は、Shift-Space (**[Shift]**キーを押しながらスペース・バーを押す)です。アプリケーション起動時には、DEC 日本語入力サーバの状態は「漢字変換」になっています。始動キーおよび終了キーの設定の変更は「言語の設定」ダイアログボックスで行います。「言語の設定」ダイアログボックスは、「オプション」メニューから「設定」メニューを選択することにより表示されます。「言語の設定」ダイアログボックスで行った始動キーと終了キーの変更は、すべてのアプリケーションに対して有効です。

DEC 日本語入力サーバは、ユーザ・キー定義ライブラリ IMLIB を使用しています。ユーザ・キー定義は、DEC 日本語入力サーバを起動したユーザのキー定義が使用されます。IMLIB を使用した日本語入力の変換キー、ユーザ・キー定義については『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。

「オプション」メニューから「キー定義」を選択することにより、変換キーを変更することができます。これにより変更できるのは変換キーの定義のみで、エコーの仕方の変更はできません。変換キーの変更は、変更時に日本語を入力していたウィジェットにのみ適用されます。

アプリケーションの入力スタイルが Off-the-spot もしくは Root の場合、クライアントの入力領域とは別にプリエディット用の領域が作成されます。プリエディットを確定しアプリケーションに入力を行うためのキーを確定キーと呼びます。確定キーの標準値は**[Return]**キーです。

確定キーの変更は「入力メソッドの設定」ダイアログボックスで行います。変更した確定キーは、Off-the-spot もしくは Root 入力スタイルを使用するすべてのアプリケーションに適用されます。

6.1.4 入力スタイル

X11R6 ではテキストウィンドウへの入力スタイルとして、on-the-spot、over-the-spot、off-the-spot、root-window を挙げています。DEC 日本語入力サーバでは、これら 4 つの入力スタイルをすべてサポートしています。また、X11R6 ではプリエディットの状態表示としていくつか挙げていますが、DEC 日本語入力サーバではいづれもサポートしていません。DEC 日本語入力サーバでは、接続しているクライアントの状態を表示する機能を持っています。

XmText、XmTextField および DXmCSText ウィジェットでは、VendorShell ウィジェットの XmNpreeditType リソースを使用して入力スタイルの設定を行うことができます。XmNpreeditType リソースには次のいずれかの値を指定します。

OnTheSpot
OverTheSpot
Root
OffTheSpot

また、XmNpreeditType リソースには複数の値を設定することも可能です。複数の値を設定する場合には、それぞれの値をカンマ","で区切ってください。

省略時の入力スタイルは OverTheSpot,OffTheSpot,Root です。OverTheSpot の場合、入力交換中の文字列はすでに存在しているテキストの上に上書きされ、変換が確定すると全体のテキストへ挿入されます。

6.1.5 over-the-spot 入力スタイル使用時の注意

DEC 日本語入力サーバを用いて、over-the-spot 入力スタイルで文字を入力する場合、preedit 中の文字は Text widget 上に表示されていても、実際には Text widget には入力されていないので、XmTextGetString 等の関数を呼んでもその

文字は受け取れません。 preedit 中の文字とはアンダーラインが引かれてる文字です。

文字の入力から次の操作へ移る前に preedit 状態を終了させ Text widget への入力を完了させる必要があります。

日本語 OpenVMS の IMLIB の TARO キー以外のキー定義の初期状態では、preedit を終了させるキーの定義がありません。そこで、そのようなキーの定義を行う必要があります。

以下は、日本語 OpenVMS V6.0 のシステムで、標準の JVMS キー定義ファイルを変更して、preedit を終了させるキーを gold + Ctrl/N として追加する例です。IMLIB のキー定義について詳しくは『ユーザ・キー定義利用者の手引き』を参照してください。

1. JVMS キー用のマクロ・ファイルと本体を自分のログイン・ディレクトリにコピーします。

```
$ SET DEFAULT SYS$LOGIN:
$ COPY JSY$EXAMPLES:IM$KEY_JVMS_LEVEL2.DAT MY_KEY.DAT
$ COPY JSY$EXAMPLES:IM$KEY_COMMON_BODY_LEVEL2.DAT MY_KEY_BODY.DAT
```

2. エディタを使って MY_KEY.DAT を変更します。

- o 以下の行を追加

```
owari = gold + CTRL_N ! 漢字変換終了
```

- o 以下の行を変更

```
(変更前) %INCLUDE (IM$EXAMPLES:IM$KEY_COMMON_BODY_LEVEL2.DAT)
(変更後) %INCLUDE (SYS$LOGIN:MY_KEY_BODY.DAT)
```

3. エディタを使って MY_KEY_BODY.DAT を変更します。

- o 以下の行を inputting, converting, kk_converting STATE に追加

```
owari : DONE, GOTO "initial";
```

4. 変更されたファイルをコンパイルします。

```
$ KEYBIND MY_KEY.DAT
```

5. profile を自分のログイン・ディレクトリにコピーします。すでにログイン・ディレクトリにある場合は必要ありません。

```
$ COPY SYS$LIBRARY:IM$PROFILE.DAT SYS$LOGIN:
```

6. エディタを使って、ログイン・ディレクトリにある IMSPROFILE.DAT の中の次の行を変更します。

```
(変更前) DEC-JAPANESE.KEY.keybind : IM$KEY_JVMS_LEVEL2
```

```
(変更後) DEC-JAPANESE.KEY.keybind : SYS$LOGIN:MY_KEY
```

6.2 日本語入力の変換キー

テキストを入力する際に使用する変換キーには、次の4つの変換キー定義があります。このうちのいずれか1つを使用することができます。特に何も指定しない限り、変換キー定義はJVMSとなります。変換キー定義の変更方法に関しては第6.2.1項を参照してください。

- JVMS キー (省略時設定)

日本語 VMS 標準の変換キー定義です。変換キーは表 6-2 の通りです。

- EVEJ キー

EVEJ エディタの変換キー定義です。日本語 EVE の EVEJ キーパッド・モードで使われています。変換キーは表 6-3 の通りです。

- LEIA キー

LEIA エディタのキー定義です。数字キーパッドを使ってかな漢字変換を行います。変換キーは表 6-4 の通りです。

- TARO キー

ワープロ・ソフトの一太郎¹の変換キー定義に似た変換キー定義です。変換キーは表 6-5 の通りです。

¹ 一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。

注意

ワークステーションで日本語キーボードを使う場合は、『リリース・ノート』の「日本語キーボード」節に記述されている省略時の設定を行ってください。

表 6-2 JVMS 変換キー定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	Ctrl+ スペース
漢字候補一覧 ²	Ctrl+'
ひらがな変換/文節ひらがな変換	Ctrl+L
カタカナ変換/文節カタカナ変換	Ctrl+K
半角カナ変換	Ctrl+G Ctrl+K
全角変換	Ctrl+F
半角変換	Ctrl+G Ctrl+F
記号変換/コード入力	Ctrl+]
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	Ctrl+P
前文節移動	Ctrl+G Ctrl+P
文節縮小	Ctrl+/
文節拡大	Ctrl+G Ctrl+/
文節前候補	Ctrl+G Ctrl+ スペース または Ctrl+G Ctrl+L
全文確定	Ctrl+G Ctrl+N
文節確定	—
変換取消/無変換	Ctrl+N

¹ Ctrl+ スペース はCtrlキーを押しながらスペースキーを押すことを示します。

Ctrl+G Ctrl+KはCtrl+Gを押した後にCtrl+Kを押すことを示します。

² 'はキーボードの左上のキーです。

表 6-3 EVEJ 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	Ctrl+ スペース
漢字候補一覧 ²	Ctrl+ ¹
ひらがな変換/文節ひらがな変換	Ctrl+H
カタカナ変換/文節カタカナ変換	Ctrl+K
半角カナ変換	PF1 Ctrl+K
全角変換	Ctrl+F
半角変換	Ctrl+E
記号変換/コード入力	PF1 Z
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	Ctrl+P
前文節移動	PF1 Ctrl+P
文節縮小	Ctrl+A
文節拡大	PF1 Ctrl+A
文節前候補	PF1 Ctrl+ スペース
全文確定	—
文節確定	—
変換取消/無変換	Ctrl+N

¹ Ctrl+ スペース はCtrlキーを押しながらスペースキーを押すことを示します。

PF1 | Z はPF1を押した後にZを押すことを示します。

² ¹ はキーボードの左上のキーです。

表 6-4 LEIA 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	[KP7]
漢字候補一覧 ²	[Ctrl+ ¹]
ひらがな変換/文節ひらがな変換	[KP1]
カタカナ変換/文節カタカナ変換	[KP2]
半角カナ変換	[KP6]
全角変換	[KP3]
半角変換	[KP9]
記号変換/コード入力	[KP8]
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	[KP5]
前文節移動	[PF1] [KP5]
文節縮小	[KP4]
文節拡大	[PF1] [KP4]
文節前候補	[PF1] [KP7]
全文確定	—
文節確定	—
変換取消/無変換	[KP0]

¹[KP0]~[KP9]は数字キーパッドの[0]~[9]を表します。
[PF1] [KP6]は[PF1]を押した後に[KP6]を押すことを示します。

²[¹]はキーボードの左上のキーです。

表 6-5 TARO 変換キ一定義

機能	キー操作 ¹
漢字変換/文節次候補	スペース
漢字候補一覧 ²	Ctrl+ ¹
ひらがな変換/文節ひらがな変換	F11
カタカナ変換/文節カタカナ変換	F12
全角変換 ³	F14
半角変換 ³	F13
記号変換/コード入力	Ctrl+]
大文字変換	—
小文字変換	—
次文節移動	<input type="checkbox"/>
前文節移動	—
文節縮小	<input type="checkbox"/>
文節拡大	<input type="checkbox"/>
文節前候補	<input type="checkbox"/>
全文確定	Return
文節確定	<input type="checkbox"/>
変換取消 ⁴	<X

¹ [Ctrl+] は [Ctrl] キーを押しながら [] キーを押すことを示します。

² はキーボードの左上のキーです。

³ 漢字 / カタカナ / ひらがな変換を行った後に全角 / 半角変換を行うことはできません。この場合は、変換取消を行った後に全角 / 半角変換を行ってください。

⁴ TARO 変換キ一定義には無変換キーはありません。

6.2.1 変換キ一定義の変更

注意

日本語 DECwindows Motif では、特に何もしない限り、JVMS 変換キ一定義を使用します。

日本語 DECwindows Motif のアプリケーションで使用する変換キ一定義はつぎの方法で変更することができます。

論理名 IM\$PROFILE をつぎのように定義する

- \$DEFINE IM\$PROFILE IM\$PROFILE_JVMS (JVMS キーを使用する場合)
- \$DEFINE IM\$PROFILE IM\$PROFILE_EVEJ (EVEJ キーを使用する場合)
- \$DEFINE IM\$PROFILE IM\$PROFILE_LEIA (LEIA キーを使用する場合)
- \$DEFINE IM\$PROFILE IM\$PROFILE_TARO (TARO キーを使用する場合)

この定義をユーザの LOGIN.COM に入れておくと、選択したキ一定義を以後のセッションで使用することができます。

新しいキ一定義を使用するには、アプリケーションを再起動してください。

6.3 変換規則

本節では、変換に関する次の規則について説明します。

- ローマ字かな変換（第 6.3.1 項）
読みをローマ字で入力する際のローマ字とかなの対応を示します。
- 特殊文字変換（第 6.3.2 項）
漢字変換によって、1 文字の記号を特殊文字に変換する際の記号と特殊文字の対応を示します。
- 記号変換（第 6.3.3 項）
記号変換によって、1 ~ 3 文字の英数記号を特殊文字に変換する際の英数記号と特殊文字の対応を示します。
- コード入力（第 6.3.4 項）
記号変換によって、漢字コードから漢字に変換する方法について説明します。

6.3.1 ローマ字かな変換対応表

ローマ字					ひらがな				
a	i	u	e	o	あ	い	う	え	お
ka	ki	ku	ke	ko	か	き	く	け	こ
qa	qi	qu	qe	qo	か	き	く	け	こ
sa	si	su	se	so	さ	し	す	せ	そ
ta	ti	tu	te	to	た	ち	つ	て	と
na	ni	nu	ne	no	な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu	he	ho	は	ひ	ふ	へ	ほ
fa	fi	fu	fe	fo	ふ	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo	ま	み	む	め	も
ya	yi	yu	ye	yo	や	い	り	え	ろ
ra	ri	ru	re	ro	ら	り	る	れ	ろ
la	li	lu	le	lo	ら	り	る	れ	ろ
wa	wi	wu	we	wo	わ	い	る	え	を
n					ん				
xa	xi	xu	xe	xo	あ	い	う	え	お
xka			xke		か			け	
		xtu					っ		
		xtsu					っ		
xwa		xwu			わ		う		
xya	xyi	xyu	xye	xyo	や	い	ゆ	え	よ
ga	gi	gu	ge	go	が	ぎ	ぐ	げ	ご
za	zi	zu	ze	zo	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ja	ji	ju	je	jo	じ	ぢ	じゅ	じゅ	じょ
da	di	du	de	do	だ	ぢ	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
va	vi	vu	ve	vo	ヴ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
kya	kyi	kyu	kye	kyo	き	い	き	え	よ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	く	い	く	え	よ
kwa	kwi	kwu	kwe	kwo	く	い	く	え	よ
sya	syi	syu	sye	syo	し	い	し	え	よ
sha	shi	shu	she	sho	し	い	し	え	よ
tya	tyi	tyu	tye	tyo	ち	い	ち	え	よ
cya	cyi	cyu	cye	cyo	ち	い	ち	え	よ
cha	chi	chu	che	cho	ち	い	ち	え	よ

補足

- ・ローマ字は大文字でも小文字でもかまいません。
- ・促音(“っ”)を入力する場合は、次にくる子音を重ねます。
- ・“ん”の次に母音があるときには“ ”(アポストロフィ)を間にいれます。

ローマ字					ひらがな				
t	t	t	t	t	つ	つ	つ	つ	つ
s	s	s	s	s	あ	い	え	え	お
t	t	t	t	t	て	て	て	て	て
s	s	s	s	s	に	に	に	に	に
h	h	h	h	h	ひ	ひ	ひ	ひ	
f	f	f	f	f	ふ	ふ	ふ	ふ	
m	m	m	m	m	み	み	み	み	
r	r	r	r	r	り	り	り	り	
l	l	l	l	l	り	り	り	り	
g	g	g	g	g	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	
g	g	g	g	g	ぐ	ぐ	ぐ	ぐ	
z	z	z	z	z	じ	じ	じ	じ	
j	j	j	j	j	じ	じ	じ	じ	
d	d	d	d	d	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	
d	d	d	d	d	で	で	で	で	
b	b	b	b	b	び	び	び	び	
p	p	p	p	p	ぴ	ぴ	ぴ	ぴ	

補足

- ・ローマ字は大文字でも小文字でもかまいません。
- ・促音(“っ”)を入力する場合は、次にくる子音を重ねます。
- ・“ん”の次に母音がくるときには“'”(アポストロフィ)を間にいれます。

6.3.2 特殊文字変換対応表

変換前	変換後
;(セミコロン)	, (読点)
. (ピリオド)	。(句点)
+ (正符号)	・ (中点)
- (負符号, ハイフン)	ー (長音記号)
¥ (円記号)	\ (逆斜線)
' (左一重引用符)	' (左一重引用符)
- (オーバーライン)	~ (波ダッシュ)
@ (単価記号)	② (二重丸)
* (星印)	米 (米印)
= (等号)	≡ (げた記号)
[(始め大カッコ)	「 (始めかぎ括弧)
] (終り大カッコ)	」 (終りかぎ括弧)
< (不等号, より小)	⌠ (始め山括弧)

変換前	変換後
> (不等号, より大)	(終り山括弧)

6.3.3 記号変換対応表

1 文字変換

変換前: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 -
 変換後:

2 文字変換

変換前: F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F0 F-
 変換後:

変換前: T1 T2 T3 T4 T5 T6 T7 T8 T9 T0 T-
 変換後:

変換前: Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y0 Y-
 変換後:

変換前: ,, ^I /] /^ || ,, .. `` ([]) << >> [[]]
 変換後: " 全 々 々 ... " [] 《 》 『 』

変換前: [()] +- XX :- =/ <= >= 00 .; 0> 0+ /_ |_
 変換後: 【 】 ± × ÷

変換前: ~ 0) ~V =- =: * < * > V~ CC OC ;. S1 S2 (-
 変換後:

変換前:)- (_)_ (()) CU CA /¥ ¥/ ~| => == V-]-
 変換後: ー

変換前: .1 '1 '2 .C C/ L- .A %% SS >< () <> [] <¥
 変換後: ° ¢ £ %o §

変換前: </ =| >- <- |^ |V ## |. .^ +1 +2]| C)
変換後: 千 十 千 卍

3文字変換

変換前: K>< K() K<> K[] K<¥ K</
変換後:

6.3.4 コード入力

漢字コードを入力して記号変換を行うことによって、漢字コードで漢字を入力することができます。漢字コードとしては、次の2種類を使用することができます。

- DEC 漢字コード
- 区点コード

DEC 漢字コードを入力する場合は、先頭に“X”を付けて指定します。

例) XA1B9 記号変換 々

区点コードを入力する場合は、先頭に“J”を付けて指定します。

例) J125 記号変換 々

DEC 漢字コードおよび区点コードに関しては、日本語 OpenVMS のドキュメント・セット内の『漢字コード表』を参照してください。

6.4 キーボードの「カナモード」の使用

DECwindows Motif では、カナ・キーボードをサポートしています。インストール後の設定や、セッション・マネージャのキーボード設定で日本語キーボード (japanese lk201aj, japanese lk401aj 等) が設定してある場合、カナ・キーボードが使えます。

カナ・キーボードは、カナを入力できる「カナ・モード」と、アルファベットや数字を入力できる「アスキー・モード」の2つのモードを切り替えて使用することができます。DECwindows Motif を起動した時点では、アスキー・モードになっています。

LK201-AJ の場合は、`[カナ+スペース]`を押す¹ことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります。

DEC2000 の PCXAJ-AA では、右側の`[Alt]`キーを押すことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります (ただし、日本語 OpenVMS AXP V1.5-1H1 のキットから提供されているキーマップでは、“右側の`[Ctrl]`”です)。

他の日本語キーボードの場合は、`[カナ]`を押すことによって、アスキー・モードとカナ・モードが切り替わります。

北アメリカ・キーボードでは、`[カナ]`キーは`[Compose]`または`[Comp]`となっています。

LK201-AJ, LK401-BJ, LK421-JJ 等、カナ・ランプのあるキーボードでは、キーボードがカナ状態にはいった時、キーボード・インディケータによりカナ・ランプが点灯します。

LK401-AJ, LK421-AJ, PCXAJ-AA 等カナ・ランプのないキーボードの場合は、キーボード・インディケータのウィンドウを表示して、カナの状態を見る事ができます。

¹ `[カナ]`キーを押しながら`[スペース]`キーを押す。

² PCXAJ-AA には`[Alt]`キー、`[Ctrl]`キーが2つあります。

セッション・マネージャのメニュー・ダイアログで、キーボード・インディケータの定義は次のようになっています。

```
@vue$library:vue$kb_indicator
```

キーボード・インディケータのウィンドウを表示するには、これを以下のように変更して、セッションを起動し直してください。

```
@vue$library:vue$kb_indicator "-map"
```

6.5 PCXAJ-AA キーボードでのキーの合成

PCXAJ-AA 日本語キーボードにおける[F13]~[F20]、[Do]、[Help]等の合成は、PCXAL-AA 英語キーボードとは多少異なります。PCXAL-AA では右側の[Alt]を押しながら同時に他のキーを押すことによって合成されますが、PCXAJ-AA では右側の[Alt]を押してカナ・モードに設定した状態で他のキーを押すとキーが合成されます。PCXAJ-AA で再度右側の[Alt]キーを押すとカナ・モードが解除されます（標準版および日本語 OpenVMS AXP V1.5-1H1 で提供されているキーマップでは、右[Alt]のかわりに右[Ctrl]を用います）。

表 6-6 にいくつかの例を示します。

表 6-6 PCXAJ-AA と PCXAL-AA でのキー合成の違い

	PCXAL-AA	PCXAJ-AA
F13	右[Alt+F3]	カナ・モードで[F3]
Do	右[Alt+ScrollLook]	カナ・モードで[ScrollLook]
Help	右[Alt+Print]	カナ・モードで[Print]

日本語 HP DECwindows Motif for OpenVMS
日本語機能説明書

2005 年 2 月 発行

日本ヒューレット・パッカート株式会社

〒 140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)
